韓国における少年非行の減少傾向に関する考察

筑波大学大学院　印粲旭

1　目的

韓国のメディアでは、少年非行の増加や深刻化を警告する記事が多く出されている。その報道において根拠として頻繁に引用されるのが、司法機関による公式統計である。公式統計において少年犯罪の検挙件数は、増加の傾向にある。

しかしながら、韓国における少年非行は減少している可能性がある。なぜなら、1990 年代の犯罪被害者調査は犯罪被害率が減少している傾向を示しており、2000 年代以降に行われた数多くの調査も少年非行が減少している傾向を示しているからである。実際に、司法機関の公式統計においても、1990 年代以降の少年による殺人・強盗件数の激減が確認される。このように、韓国の少年非行は減少している可能性が見出される。

本報告の目的は、韓国における少年非行の減少傾向にいかなる要因が影響を与えているのかについて説明を試みることである。

2　方法

本報告では、2 次資料の記述的分析を行う。分析に用いられる資料は、司法機関の公式統計、韓国統計庁の社会調査、日本内閣部の世界青年意識調査、犯罪被害者調査、韓国青少年パネル調査を含む青少年に対する様々な調査結果である。

なお、記述的分析はこれまでの先行研究を踏まえて検討を試みる。その際、韓国の少年非行の原因に関する先行研究で指摘されていたように、学業に対する圧力から生じる緊張（Kim 1990）、学校や教師に対する生徒の愛着の強化（ファン・ジテ 2010）等に注目し、学校教育の変化や教師との関係についても分析の視点に含める。また、少年非行の減少の類似性をもつ日本における先行研究で明らかにされているように、親子関係の変化を背景とした非行文化や非行グループの衰退（土井 2012）にも注目する。

3　結果と結論

記述的分析によって、学校教育の拡大が学校・教師に対する愛着に直結されるとは断定できない可能性が見出された。また、親子関係の変化を背景に非行文化が衰退している可能性が見出され、この点は韓国と日本の類似している点である。以上の分析を踏まえ、報告当日には、2000 年代前後に韓国社会で現れた変化について考察する。

［文献］

Kim, Joon-Ho. (1990). A Study on Korean Juvenile Delinquency: The Study Pressure Approach. *Korean Criminological Review, 1*, 113-142. (In Korean)

土井隆義，2012,『少年非行「減少」のパラドクス』，東京：岩波書店.

ファン・ジテ, 2010,「韓国社会の犯罪増加趨勢に対する批判的研究」. 韓国高麗大学校博士学位論文.